誌上行学講習会

高佐日煌上人

第六課　整識観序説

では本日から第二教程に入ります。第一教程の百界心理では我々人間の心に百通りの明暗の変化がある。明るい心と暗い心が働いているということを学んだわけでありますが、これからは心の中に入りまして、心がどんな仕組みによって構成されているかを学びとるわけであります。自分の心ですから毎日自分が使っていることは事実であります。ところがその自分の心がどのようにつくられているかはあまりというよりも全々知られていないのが実状のようであります。これは自分の顔につ

いても言えることで、自分の顔であることは知っていてもどのようにつくられているかは鏡に向かわねば解りません。これからは知識という鏡に自分の心をうつすわけであります。自分の心の構成、つまり出来具合、これも解りません。たゞその日その日の出来心で生きるということになってしまいます。ではやはりテキストにしたがって説明を加えて参ります。

「第二教程、第六課、整識観序説。一、人間は精神に支配せられて居ると知りながら自分の心の組立てに無知の人が非常に多い。正しい人生観をもたない所以である」

人生観とは我々の一生はどういうものであるかどういう考へ方をし、どういう行いをすればよいかという正しい観方を言うのであります。

「然かも是を知識する門戸は極めて狭いのである。近代心理学はそれを知らしめる学問であるが、余りに専門的で一般人の知識するには不便である」

心理学というのは非常に進んでおりますが、それだけ繁多で世に出ている本もおびたゞしい数に達している。私は専門家として近代心理学を全て研究したのでありますが、本を買っただけでも一身上つくれる程でありました。ですから一般の方々が心理学を学ぶことはなかなか並大低のことではないと思うのであります。

「仏教には旧くから唯識という心識学があるが、これも難解に於て有名であるから、素人は近寄れない」

唯識三年倶舎八年という言葉があって、毎日専門に最低三年間を勉強しないと唯識は解らないということになっていたのであります。

（以下次号）